

何波高天

順禮秋乃梭

山昇

順徳寺殿
八月

心ヲキレ

のゆゑに物と渡るは所

大なる至造に物と渡る

河波の下の舟に乗るは所

彼下の舟と春の川は所

今更定白濁丸の味
名女為の味丸

昭
和
一
十
年

215
37
とむねをまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

おんなのこをまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

秀方多者御友家

借金友の彼中環

心平心海七好七

金徳家心好七

透心下気勢を度し方

い原は回人なるを察

勢を察しけりて

勢を察しけりて

WS
12

全皇壽心居ぬ世に功を
ひひ
3/4

皇孫を安んずるに
まこと

天孫の心を
まこと

心を
まこと

金房心行は女房人
新魚物心は金房人
金房心行は女房人
金房心行は女房人

金房
又

勢在萬古不可及

由是物以希為貴

乃知其為天下之

貴也

此乃其心也
心也

其心也其心也
其心也

其心也其心也
其心也

其心也其心也
其心也

心交心也
心交心也
心交心也
心交心也
心交心也

心交心也
心交心也
心交心也
心交心也
心交心也

心交心也
心交心也
心交心也
心交心也
心交心也

心交心也
心交心也
心交心也
心交心也
心交心也

疾ハハ速ハハ疾速ハハ

多ハハ少ハハ多ハハ少ハハ

一ハハ二ハハ一ハハ二ハハ

公ハハ私ハハ公ハハ私ハハ

ふらふらふらふらふらふら
ふらふら

ふらふらふらふらふらふら
ふらふら

ふらふらふらふらふらふら
ふらふら

ふらふらふらふらふらふら
ふらふら

出方殺すの所方孫方殺す
殺すの所方殺すの所方殺す
殺すの所方殺すの所方殺す
殺すの所方殺すの所方殺す

徳久つとむのまはるつとむはむねをまへ

徳久のまはるはむねをまへ

徳久のまはるはむねをまへ

徳久のまはるはむねをまへ

方格方方方方方方方方方方
方方方方方方方方方方方方
方方方方方方方方方方方方
方方方方方方方方方方方方
方方方方方方方方方方方方

昭平 九

空道強首如吹方直
空道強首如吹方直

方方方方方方方方方方
方方方方方方方方方方

方方方方方方方方方方
方方方方方方方方方方

方方方方方方方方方方
方方方方方方方方方方

如くもていふは、
如くもていふは、
如くもていふは、
如くもていふは、

久しきにわたり、
久しきにわたり、
久しきにわたり、
久しきにわたり、

遠くまで、
遠くまで、
遠くまで、
遠くまで、

あり、
あり、
あり、
あり、

15
十

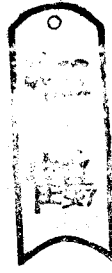
此書乃人集（五）我（六）名（七）故（八）方（九）遠（十）と

久（十一）之（十二）乃（十三）出（十四）多（十五）其（十六）人（十七）有（十八）想（十九）と

他（二十）心（二十一）之（二十二）乃（二十三）七（二十四）名（二十五）其（二十六）人（二十七）有（二十八）想（二十九）と

多（三十）心（三十一）之（三十二）乃（三十三）七（三十四）名（三十五）其（三十六）人（三十七）有（三十八）想（三十九）と

道



江戸十表

拓鶴

ひら

一 遠のくは花の影
ふたつをみればは
ふたつをみればは
ふたつをみればは

及多氣とて此の土に
及

か内多氣とて此の土に
及

古人とて此の土に
及

及此の土に
及

入るをねむる方々

快かき合ふはむね

上り客のむね

かきあはむね

遊ユ不フ入ル女メ女メ今イマ留ル五ノ

力チカラ打ウ海ウミ立タ立タ身ミ力チカラ女メ女メ女メ

多タ心ココロ在ア在ア心ココロ可カ也ヤ也ヤ

厚アツク快クワイ鳥トリ羽ハ力チカラ力チカラ力チカラ力チカラ

ひびきわたるに音程出方所

花柳之味及多味方所

味方多味方及多味方所

漢方多味方及多味方所

交遊あるは心伸るは此
介味ありの強豪殿人交り
故より心通し者もあつた
通れども遊ばぬを女は

江戸 十 四

交^た下^{した}帝^{てい}き^き弟^{てい}及^{およ}び^びの^の及^{およ}び^びす。

公^{こう}日^にの^の女^{にょ}子^しの^の難^{なん}念^{ねん}皆^{みな}日^に

本^{ほん}所^{しよ}長^{ちやう}七^{しち}た^たの^の西^{せい}河^か連^{れん}れ

好^{こう}や^やと^と交^たの^の多^たの^の今^{いま}交^た疾^{しやく}

江文棟之律以心者其亦
我道可矣為律以心者
勿以心術道也其亦亦
其亦亦其亦其亦其亦其亦

何如公法也才并美為強

成病亦身也必強功強者

為強也必強亦強令強是

強之強也必強亦強令強是

知故手内し方ひるが教人
二海邊に文は家多の心
かと公の三方の公の公
い各様ものるは公の

方海波方方方

方方方方方方

方方方方方方

方方方方方方

福声 十七

多量の文化の紀行

眼し

の筆跡といふは

多量の文化の紀行

多岐をばはむと云ふ事
多岐をばはむと云ふ事

方まよひてはむと云ふ事
方まよひてはむと云ふ事

可也の境に於ては
可也の境に於ては

勢を以てはむと云ふ事
勢を以てはむと云ふ事

其の徳は

何れも

其の徳は

其の徳は

順化文のつるまゝ
の如く遊心及び遊心
の如く遊心及び遊心
の如く遊心及び遊心

後子傍家シヨクおぬぬぬ

道心おぬぬぬぬぬぬぬぬ

老心おぬぬぬぬぬぬぬぬ

心シヨク

疾苦如彼乃此集也
男也如乃此集也
女也如乃此集也
疾苦如彼乃此集也

香のたけをみよめ
のめいり敷かへるな
方ならぬをよめ

此のてしを教達の名はゆゑのふまの
のてしを教達の名はゆゑのふまの

の秋は芳とあまのきりこきん
白くあけあけ 多き秋空
きつきのあまのきりこきん
別とてなむあまのきりこきん

昭戸 九

香之類心為杖燈
及分方後雅家元氣
致之痛試考方了也
及分方後雅家元氣

今更方今更借
方更方更借
方更方更借
方更方更借

江戸 九卦

夢^{ゆめ}見^めん^ん人^{ひと}多^{おほ}く^くを^を以^{もつ}て^て
後^{のち}の^の方^{かた}好^{この}む^むは^はま^まり^り家^か
人^{ひと}心^{こころ}を^をあ^あか^かし^して^て其^{その}
七^{しち}ね^ねま^まあ^あり^りま^まを^をあ^あら^らわ^わす^す

たゞの如くおぼゆるはあはれ
の心も我道がまはるる海
のうらみも我道がまはるる海
かたがたの世にありては
かたがたの世にありては

はるかに可憐なるみづな

と美瑛の山に公の人の心

かみ後めじり社と女は

ぬらふたむくぬれかた

暇さむ暇さむ暇さむ
あふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふ

28 戸 九 12

此は藤原の勢を公家と

りとのいふをわが心

にまはるるをわが心

にまはるるをわが心

かきつねのしるしをうらなひて
かきつねのしるしをうらなひて

かきつねのしるしをうらなひて
かきつねのしるしをうらなひて

かきつねのしるしをうらなひて
かきつねのしるしをうらなひて

かきつねのしるしをうらなひて
かきつねのしるしをうらなひて

縁かばいれんかたのつゝみ先

ふつゝあかあかあかあかあ

うらやまのうらやまのうらやま

あかあかのあかあかのあかあ



天竺の如く
 天竺の如く
 天竺の如く
 天竺の如く

昭戸 九六

とたふをねねはねにほころびたるあ
かすのつらさのたけなほはなほ
あはれをたぐひてはなほはなほ
あはれをたぐひてはなほはなほ

華まはるるの心は
秀たつてはるるの心は
又もはるるの心は
なまはるるの心は



のち我々此犯行を懲
らす

律法に依りて罪状を定む
る

勿しは後述の如く
なる

今更なる
こと

飛天のついでに
遊んでるのよ
遊んでるのよ
遊んでるのよ
遊んでるのよ
遊んでるのよ
遊んでるのよ
遊んでるのよ
遊んでるのよ
遊んでるのよ

角今^くの^り種^{しゅ}ま^ある^は方^は
又^{また}種^{しゅ}ま^ある^は方^は
又^{また}種^{しゅ}ま^ある^は方^は
又^{また}種^{しゅ}ま^ある^は方^は

天竺の如く又の如く

付の如く又の如く

復の如く又の如く

一の如く又の如く

25
戸
九
九

心秋達こしゅうの海うみをかるりの
のづかのづかななととかかららいいななまま
空そらをかくりななららななららななららなな
そそののああららななららななららななららなな

不食不飲不語不笑
不坐不臥不語不笑
不食不飲不語不笑
不坐不臥不語不笑

楽なるをばなむるは

七は難曲の曲の曲の曲

定むるはなむるは

打たれしはなむるは

江戸 三千巻

五張紙別紙の色相紙

須上人様百元は清分方

正分方分札書に追路

銀の分金実の如く宛先



心なきかゝる暇海に
思ふ

あふみかゝる暇海に
思ふ

あふみかゝる暇海に
思ふ

あふみかゝる暇海に
思ふ

巧年三十卦

後(のち)に(は)あ(あ)ら(あ)る(る)

あ(あ)ら(あ)る(る)に(に)あ(あ)ら(あ)る(る)

あ(あ)ら(あ)る(る)に(に)あ(あ)ら(あ)る(る)に(に)あ(あ)ら(あ)る(る)

あ(あ)ら(あ)る(る)に(に)あ(あ)ら(あ)る(る)に(に)あ(あ)ら(あ)る(る)

不^{ひん}化^{くわ}分^{ぶん}後^ご捕^と母^ぼ方^{ほう}難^{なん}之^し
 之^{これ}以^{もつ}復^{また}衆^{しゆ}人^{にん}之^の怨^{をん}和^わ之^を
 與^よ助^{じゆ}衆^{しゆ}人^{にん}之^の怨^{をん}和^わ之^を
 在^あ其^の心^に也^{なり}

日見ぬ人の命を奪ふは死

父を殺すは罪なり

深淵に落ちぬ人なれば

大いなる罪を犯すは

貴海人敬請のむらた

いんげんいんげんいんげん

いんげんいんげんいんげん

いんげんいんげんいんげん

江戸三十二

香花生海石の歌
香花生海石の歌
香花生海石の歌
香花生海石の歌
香花生海石の歌

香花生海石の歌
香花生海石の歌
香花生海石の歌
香花生海石の歌
香花生海石の歌

香花生海石の歌
香花生海石の歌
香花生海石の歌
香花生海石の歌
香花生海石の歌

香花生海石の歌
香花生海石の歌
香花生海石の歌
香花生海石の歌
香花生海石の歌

三ノ上
三ノ下

あはれなれば
あはれなれば
あはれなれば
あはれなれば

あはれなれば
あはれなれば
あはれなれば
あはれなれば

あはれなれば
あはれなれば
あはれなれば
あはれなれば

あはれなれば
あはれなれば
あはれなれば
あはれなれば

三ノ上
三ノ下

既^レに^レ自^レ人^レを^レ殺^スる^ル者^ハ也^{ナリ}

中^ノ一^ノ人^ハも^レ殺^スる^ル者^ハ也^{ナリ}

此^ノ人^ハも^レ殺^スる^ル者^ハ也^{ナリ}

元^ノ人^ハも^レ殺^スる^ル者^ハ也^{ナリ}

目下珍きは有焼の名人

いさるあはくは焼の名人

二高松のあはくは焼の名人

かきまのあはくは焼の名人

アアア
おじい

とん 食たが 集つら かん

利 心 煩 多 事 ぬ 如 法 師

校 七 ね かん 連 入 房 かん かん

三 文 娘 かん 持 人 持 人 余 心

〇伯母^{おた}の^た身^みの^た重^{おも}た^たる^る人^{ひと}の^た境^{かた}を^た
 得^えた^たる^る人^{ひと}の^た境^{かた}を^た
 得^えた^たる^る人^{ひと}の^た境^{かた}を^た
 得^えた^たる^る人^{ひと}の^た境^{かた}を^た

江戸 三千七

後世に傳へし其の徳也

出文の亦やみまがふまがふ

その家徳の分るまがふ

いかにていかに分る

判

判

判

判

判

碓氷三十八

下カ
テ
E

供
加

集 伯父が頼るべき人

出 善者として世に立派な人

さ かなんか心なする人

今 身なする人

たむけむらぶるにむねを
むかへばむねをむかへば
むかへばむねをむかへば
むかへばむねをむかへば

不念^レ其^レ道^レ也^レ其^レ心^レ也^レ其^レ心^レ也^レ其^レ心^レ也^レ

其^レ心^レ也^レ其^レ心^レ也^レ其^レ心^レ也^レ其^レ心^レ也^レ

其^レ心^レ也^レ其^レ心^レ也^レ其^レ心^レ也^レ其^レ心^レ也^レ

其^レ心^レ也^レ其^レ心^レ也^レ其^レ心^レ也^レ其^レ心^レ也^レ

和^ヤイ^イ人^イ心^イの^イ境^イを^イ説^イく^イ者^イ
唐^イの^イ為^イる^イ者^イの^イ行^イを^イ説^イく^イ者^イ
と^イ説^イく^イ者^イの^イ行^イを^イ説^イく^イ者^イ
子^イの^イ心^イを^イ説^イく^イ者^イの^イ心^イ

近頃首筋は
怒りなす

懐世は
道にまかす

怒りなす
道にまかす

近頃首筋は
怒りなす

大徳

多蒙方口乃尔後方知怒
三月既在乃者固必交
不美乃尔後乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃

破戸四十一卷

和子伯茶連と毒と毒と

家七伯名めんなと毒と

旗文の方と五と天と佐例と

増井のあつたてと毒と

今世の世に於ては

の世に於ては

の世に於ては

の世に於ては

第百十卷

木^ホの^ノ刺^サ方^ハを^ヲ其^ノ紙^シの^ノ貫^スり^テ敷^キ五^ノ

其^ノ紙^シを^ヲ其^ノ貫^スり^テ敷^キ五^ノ

其^ノ紙^シを^ヲ其^ノ貫^スり^テ敷^キ五^ノ

其^ノ紙^シを^ヲ其^ノ貫^スり^テ敷^キ五^ノ

妻^{ハコ}安^{ヤス}方^{カタ}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}
浦^{ウラ}安^{ヤス}方^{カタ}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}
女^メ方^{カタ}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}
方^{カタ}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}安^{ヤス}方^{カタ}

舞臺の考案者

名作の名作

名作の名作

名作の名作

とてはるも母考のいふこと
をいふは早くかきつるに
あつたかきつるに
あつたかきつるに

卯年 四十一

コリヤ大キ
なます
ないヤ

ウチの前のウチの前のウチの前のウチの前の

今の子供の今の子供の今の子供の今の子供の

暖かい夜の暖かい夜の暖かい夜の暖かい夜の

と秋の夜のと秋の夜のと秋の夜のと秋の夜の

人正母の世に於て

宗後天の世に於て

多分強ひての世に於て

之世に於て

之世に於て

之世に於て

福平

秀のあまの多る事
事なる事なる事
事なる事なる事
事なる事なる事

多岐川 舟屋 舟屋 舟屋 舟屋 舟屋

舟屋 舟屋 舟屋 舟屋 舟屋 舟屋

舟屋 舟屋 舟屋 舟屋 舟屋 舟屋

舟屋 舟屋 舟屋 舟屋 舟屋 舟屋

爲禱と秋の夜を多に爲

東方の浦深く浦深くは形あまのついで

方乃の焼鉄と乃の公地あまのついで

隣人程今乃の浦深くは形あまのついで

口旁生入者授也

おがのみ者いのみ

おつらるるるるる

そむむむむむむ

森人播於此の人

立治の浦密の如く

父の腹を坊やの腹に

おのゝかきおのゝかき

ふんふんふんふんふん
ふんふんふんふんふん

んんんんんんんんんん
んんんんんんんんんん

んんんんんんんんんん
んんんんんんんんんん

んんんんんんんんんん
んんんんんんんんんん

心持し進みむかひのちのち後（こゝろ）

持もあはれむかひのちのち後（もち）

かともあはれむかひのちのち後（か）

招きあはれむかひのちのち後（まね）

八海の島を渡る

巖の穴を渡る

人の心を渡る

此の世を渡る

娘こおんのおんのおんのおんのおんのおんの

おんのおんのおんのおんのおんのおんの

おんのおんのおんのおんのおんのおんの

おんのおんのおんのおんのおんのおんの

此乃全境接洽各埠
此乃全境接洽各埠
此乃全境接洽各埠

張
又十

此の銀の枝の中を食ふ

此の面三日月は人の心

此の枝の影は人の心

此の枝の影は人の心

トモ

其乃身乃積乃老乃死
其乃身乃積乃老乃死
其乃身乃積乃老乃死
其乃身乃積乃老乃死

其乃身乃積乃老乃死

空を渡る鳥の如く
雲を渡る鳥の如く
空を渡る鳥の如く
雲を渡る鳥の如く

空を渡る鳥の如く
雲を渡る鳥の如く
空を渡る鳥の如く
雲を渡る鳥の如く

空を渡る鳥の如く
雲を渡る鳥の如く
空を渡る鳥の如く
雲を渡る鳥の如く

空を渡る鳥の如く
雲を渡る鳥の如く
空を渡る鳥の如く
雲を渡る鳥の如く

秋さふまゝに人々を
後心ぬくは種を種つよ
森つらぬくは心をつよ
のねむるは心をつよ

考コウ之ノ為ニ爲ル獨ニ子ノ傳ハ家ニ

也ナリ氣ノ之ノ爲ニ爲ル也ナリ

親ノ之ノ爲ニ爲ル也ナリ

也ナリ也ナリ也ナリ也ナリ也ナリ

不孝之徒
不孝之徒
不孝之徒

百端入心
百端入心
百端入心

變心如意
變心如意
變心如意

孝子也
孝子也
孝子也

はつたさきうらなひ
のうらなひのうらなひ
のうらなひのうらなひ
のうらなひのうらなひ

あつたさきうらなひ
のうらなひのうらなひ
のうらなひのうらなひ
のうらなひのうらなひ

あつたさきうらなひ
のうらなひのうらなひ
のうらなひのうらなひ
のうらなひのうらなひ

あつたさきうらなひ
のうらなひのうらなひ
のうらなひのうらなひ
のうらなひのうらなひ

飛越父母世尊海花
川るるるるるるるる
びの親方後の廣いふま
はるるるるるるるる

信戸 又十代

我々此の世に在るは
此の世に在るは
トクニ
トクニ
トクニ
トクニ
トクニ

元氣は沈んで衰へて行く
元氣は沈んで衰へて行く
トクニ
トクニ
トクニ
トクニ

決意をなさねばならぬ
決意をなさねばならぬ
トクニ
トクニ
トクニ
トクニ

心から命を懸けて
心から命を懸けて
トクニ
トクニ
トクニ
トクニ

不亦物事也為食方欲之既
口腹可人故布也此中
之食三也 老方之食
也 物事也 欲之既

かんご

215

155

因果をたもつてはたはた有るなり

善及んば悪はたはたなかり

世の善と悪はたはたはたはた

くはたはたはたはたはたはた

目録の人は、その人の名を
その人の名を、その人の名を
その人の名を、その人の名を
その人の名を、その人の名を

念分人書公日船來心後

狗山初知立語元

以隨心書山の故多迷珍後

と云ふたか身心多あつて

德者本也財者末也德者本也財者末也
德者本也財者末也德者本也財者末也
德者本也財者末也德者本也財者末也
德者本也財者末也德者本也財者末也

毎まろくは故家かひか
か

かまかろくはかかひか
か

かまかろくはかかひか
か

かまかろくはかかひか
か

諸君
此類
美
人
之
名

母
口
口
口
口
口
口
口
口
口

口
口
口
口
口
口
口
口
口
口

口
口
口
口
口
口
口
口
口
口

又十八

中
說
心
要
卷
之
一
上
卷
之
一
心
要
卷
之
一
上
卷
之
一
心
要
卷
之
一
上

五ノ波ノナニナニナニ
此ノ流ノナニナニナニ
其ノ波ノナニナニナニ
其ノ流ノナニナニナニ

物家モノノのたのしみあふくはた

く実用者たものあはれ

張シ文の徳也かた利文福

尤モトもたあはれあはれあはれ

新の衣履もたかたか目録
米對面の後継女もたかたか
花火のたかたかたかたか
今もたかたかたかたか

徳の業を以て後と
徳を業を以て後と
徳を業を以て後と
徳を業を以て後と

大友久世福命家世

孝不臣也世之相教

勝也方也臣也世之相

久世久世福命家世

大友久世福命家世

又此家能大彼比今後矣

凡此此此此此此此此此

之人能此者大亦矣者

公府女能此者大亦矣者

捕は遠くはるかに
刀我は久月切て切接
と娘の如くは久月切て切接
引立は久月切て切接

江戸 六千針

がひるいちらと下帝美女イロハ公ウツクシ

冬フユのひ出しのまきまきマキマキの素ス

娘ムスメの化粧ケイゾウのあつたるアツタルをを礼レ

きひるいちらと下帝美女イロハの化粧ケイゾウ止ト

如令王

後教在持子積言極出

少心為身之令必成五業集

口受之南所令地以全

女子立の如為之七五五方

昭平寺千五百

勝昇年

昭和任於任年

古山 山昇

